



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ピッグズ湾 (B)

5

実行された進攻計画

ピッグズ湾への進攻計画が実行に移されると、計画通りにはまったくいかなかった。侵攻部隊への補給船であるリオ・エスコンディド号には、通信機械と食料、医療品の他 10 日分の弾薬が積んであったが、上陸当日の朝、カストロ空軍機によって沖合で撃沈されてしまった。補給品を積んだもう一隻のヒューストンも沈められた。

10

この 2 隻に同行していたアトランチコ号とカリベ号にも、予備の補給品と弾薬が積まれていた。しかし、2 隻が撃沈されると、この 2 隻は、沖合 50 マイルで再編成せよという米海軍の命令を無視してどんどん南方に逃げてしまった。制止した頃には、カリベ号はあまりにも遠方に出たため、コチノス湾に帰っても救援に間に合わなくなっていた。

15

一方、アトランチコ号は翌日夜戻り、50 マイル沖合で弾薬を 5 隻の舟艇に積み替えたが、暗闇にまぎれて海岸まで運ぶことはもう不可能な状況となっていた。アトランチコ号のキューバ人船員は、夜が明けるとまた空襲を受けるに違いないので、米海軍の駆逐艦が護衛しジェット機で空を援護しなければ反乱を起こすと騒ぎ立てた。

20

アメリカ人は戦闘地域に出てはいけないという大統領の禁令は、他のところでは破られたが、これらの貨物船にはアメリカ人は同乗していなかった。

浜辺では侵攻部隊が弾薬を要求していたので、輸送司令官はワシントンの CIA 本部に海軍の援助を求めた。ところが CIA 本部は海岸における情勢を十分に把握できず、大統領にも相談し

25

.....
本ケースは次の資料から引用しつつ高木晴夫によって 1991 年に作成された。

「ケネディ 栄光と苦悩の一千日」(原書名: A Thousand Days)

Arthur M. Schlesinger, Jr. 著 中屋健一訳 河出書房刊

「ロバート・ケネディ 13 日間 キューバ・ミサイル危機回顧録」

(原書名: Thirteen Days; A Memoir of The Cuban Missile Crisis)

Robert Kennedy 著 毎日新聞社外報部訳 毎日新聞社刊

「ケネディの道」(原書名: Kennedy)

Theodore C. Sorensen 著 大前正臣訳 サイマル出版会刊

30

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。